

ふるさとづくりのために
環境経済に取り組んでいます！ 16

株式会社 Teiamus
耕作放棄地再生による農業活性化



「環境を良くする事業で経済効果が生まれることにより、環境と経済は互いに発展し合う」。このような環境経済型事業に取り組む企業にインタビューします。
《問合せ》経済課経済係 ☎ 2314480

耕作放棄地を再生しようと思っただけは？

26歳で豊岡に帰ってきて建設業を始めたとき、耕作放棄によって荒れている土地が多くある一方で働き先が少ないと感じました。

環境のためにも、経済・雇用のためにも、何とかしたい、また、工夫すれば解決策があるのではないかと思いました。その後、豊岡市商工会青年部の人材育成塾で農業のスキルや人脈を持った同業者と意気投合し、建設業2社で当社を設立しました。

現状は？

3カ所(約1ヘクタール)の耕作放棄地を再生し、トマト



▲栽培された小松菜

やピーマンなどを栽培しています。また、ビニールハウスを3棟

設置し、パプリカや小松菜などを栽培しています。さらに、実験的に水稲栽培にも取り組んでいます。栽培に当たっては、食品をリサイクルして作った有機液肥を使用し、ビニールハウスの一つは木質ペレットのボイラーで暖房するなど、環境に配慮しています。



▲ペレットボイラーを設置

販売は？

道の駅神鍋高原などの地元のお店と京阪神の直売所などで販売しています。

お客様の反応は？

神戸元町商店街の水曜市などのイベントに出店し、お客様と直接話をする、但馬の野菜が高く評価されていることが分かりました。そこで、今後は都市部での販売を拡大したいと思っています。

建設業者の農業参入について、どう考えますか？

建設業で培った強みを生かすことが大切だと思います。建設業は農地整備などの施設整備だけでなく、工程・コスト管理などの能力があります。

今後の展開は？

まず、耕作放棄地を増やさないために、耕作依頼を可能な限り引き受けたいと思っています。今年は新たに1・5ヘクタールの水田と0・7ヘクタールの耕作放棄地で耕作を開始する予定です。

また、当社の規模の拡大に加え、当社のノウハウの提供によって農業に取り組む仲間を増やすグループ化を進め、生産が間に合っていない現状を改善したいです。

将来的には、農業塾等での人材育成・就農支援も行い、農業で経済・雇用を活性化したいと思っています。